

現状

課題

① 地域状況の視点

1) 人口分布・高齢化率

- ・ 鉄道沿線（＝市街化区域）に人口が集中
- ・ 一方で、郊外部も人口が分散して分布
- ・ 将来的な高齢化率の増加が想定される

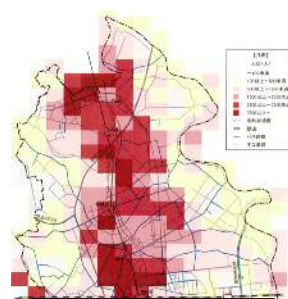


図1 人口分布 (H22 国勢調査)

2) 施設立地

- ・ 大規模商業施設の多くは鉄道駅周辺に立地
- ・ 公共施設や福祉施設、医療施設、教育施設は大部分が鉄道駅またはバス停周辺に立地

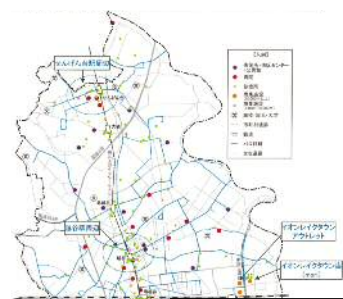


図3 施設立地状況 (国土数値情報等)

3) 道路整備状況

- ・ 越谷市まちの整備に関する条例に基づき6m以上の道路拡幅を進めてきたことから、平成27年3月末現在で、道路改良済の延長率は、約84.7%となっている。
- ・ 平成27年3月末現在、都市計画道路の整備率は、約63.8%となっている。

○市民の目的地となる主要施設は鉄道駅周辺に立地しているため、人口が集中している地域だけでなく、**人口が分散分布している郊外部から鉄道駅周辺への移動における市民の足（＝公共交通）の確保**が必要

○将来的に市全域での高齢化の進展が想定されており、また人口が分散分布している郊外部ほど高齢化率が高い傾向にあるため、**郊外から鉄道駅周辺に移動する際の高齢者のモビリティ確保の視点**が必要

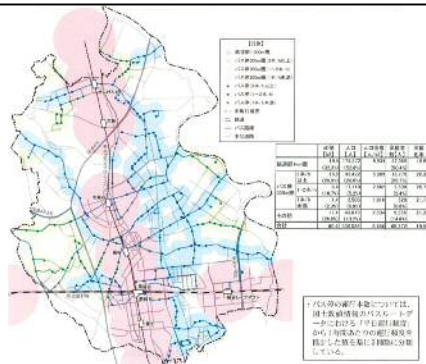
○引き続き、道路拡幅事業等を進めるとともに、**道路状況に見合った車両での運行の検討**も必要

② 公共交通の需要と供給の視点

1) 公共交通ネットワークの現状（供給側）

- ・ 鉄道が南北及び東西に運行、バス路線が鉄道を補完する形で運行
- ・ 公共交通による人口カバー状況は87%となっており、高い水準
- ・ 一方で、郊外部ではバスまたは鉄道の利用が困難なエリアも存在

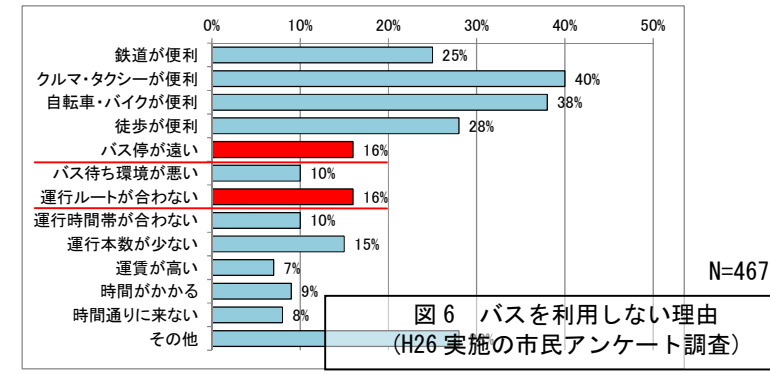
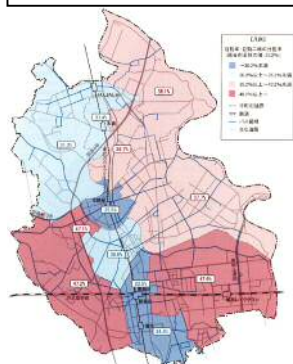
図4 公共交通ネットワーク (鉄道駅半径1km、バス停半径300m)



2) 市民の移動実態、ニーズの現状（需要側）

- ・ 鉄道沿線では公共交通の利用が高いが、鉄道から距離のある地域では自動車の利用率が高い
- ・ バスを利用しない理由の「バス停が遠い」「運行ルートが合わない」などについては、適切なルートや運行形態によっては、利用の可能性はある

図5 自動車の分担率 (H20PT調査)



○公共交通の利用が困難な地域から鉄道駅や拠点への移動の確保のための、公共交通が必要

○周辺部は人口が分散分布しているため、従来のバス路線等では採算性確保が困難であると想定されることから、**市民の参加や車両の効率的運用等を通じた、持続可能な地域交通の確立**が必要

○市民アンケートでは、他の交通手段が便利という意見を除くと、バスを利用しない理由は「バス停が遠い」「運行ルートが合わない」などとなっており、**市民ニーズの適切な把握と運行形態、事業形態の検討**が必要

② ミニバスの試験運行の結果

1) ミニバスの試験運行の運行形態

- ・ せんげん台駅を起点とし、バス網が手薄な地域(新方地区)を運行
- ・ ワンボックス車両を使用し、1日11往復で運行

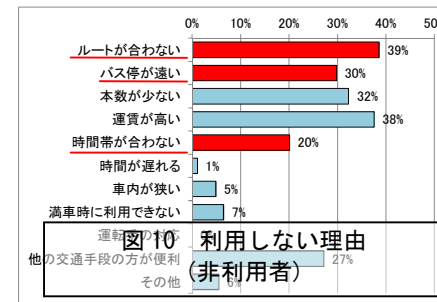
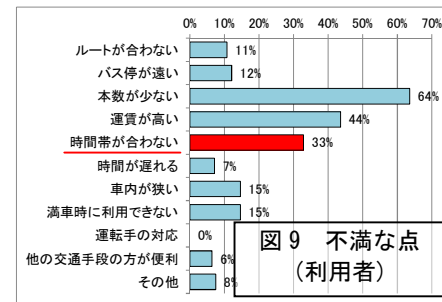
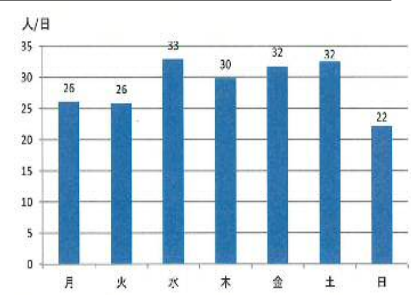


図7 ミニバス運行ルート

2) 利用状況、市民ニーズ

- ・ 6ヶ月の平均では1日当たり約30名の利用⇒1往復当たり約3名と少ない
- ・ 収支率は14.2%となっており、同様の手法では採算性の確保は困難
- ・ 不満な点、利用しない理由として「ルートが合わない」「バス停が遠い」「時間帯が合わない」などが多い。

図8 1日当たりの利用者数平均



○7時台での利用が多く、通勤・通学または通院での利用が想定されるが、日中での利用が少ないため、**買い物や通院のニーズを踏まえた上での需要の見極め、ニーズに合わせた運行形態の見直し、他地域への展開方策の整理**が必要

○利用しない理由として、運行本数や運賃を除くと、「ルートが合わない」「バス停が遠い」「時間帯が合わない」という理由が多いため、**改善による利用増の可能性は高いと想定され、市民ニーズの適切な把握**が必要

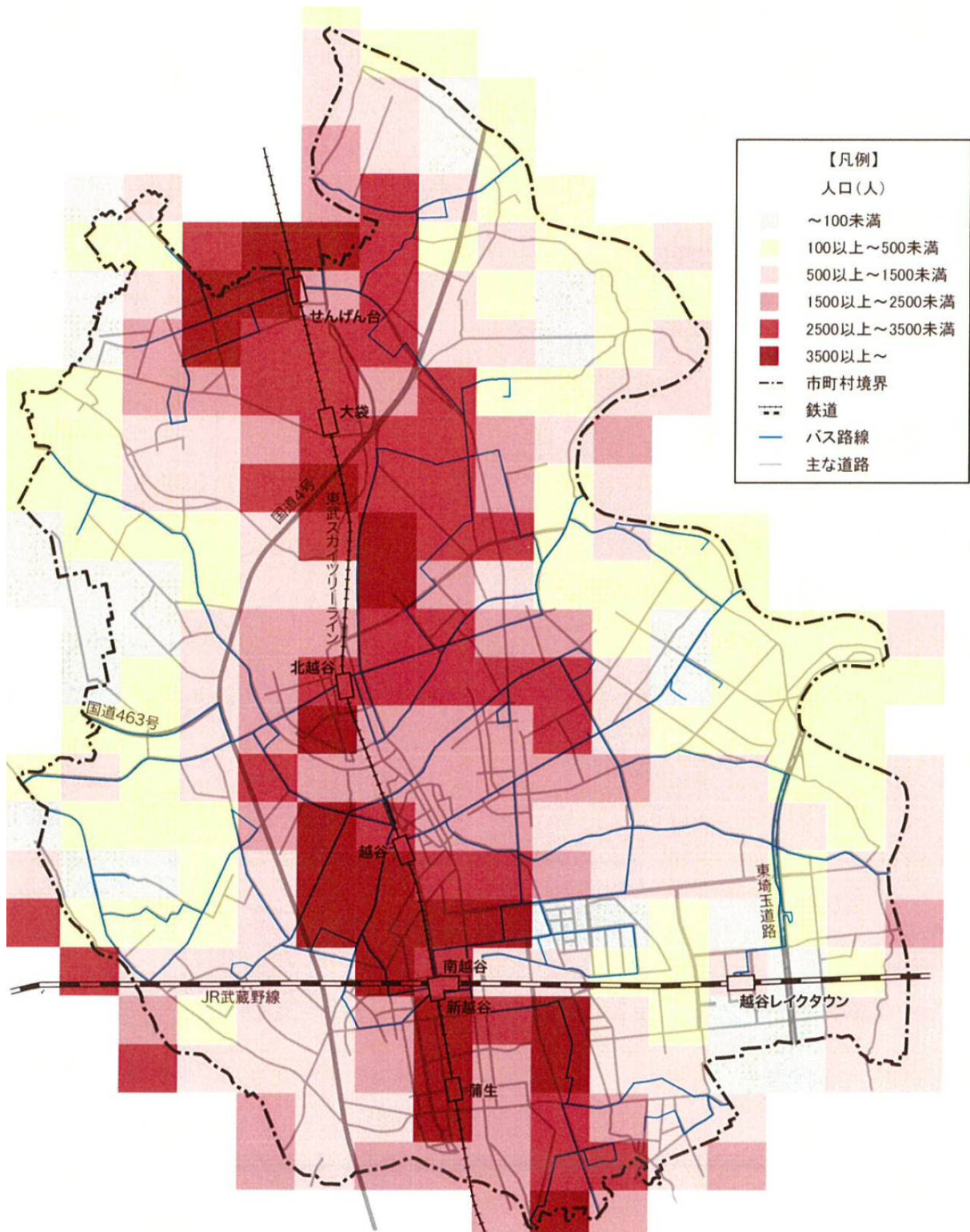
○運行維持のための**市民との協働体制の視点**が必要  
※公共交通を持続可能なものにする仕組みが必要

(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

①地域状況の視点

1)人口分布・高齢化率

図1 人口分布図(平成22年国勢調査)

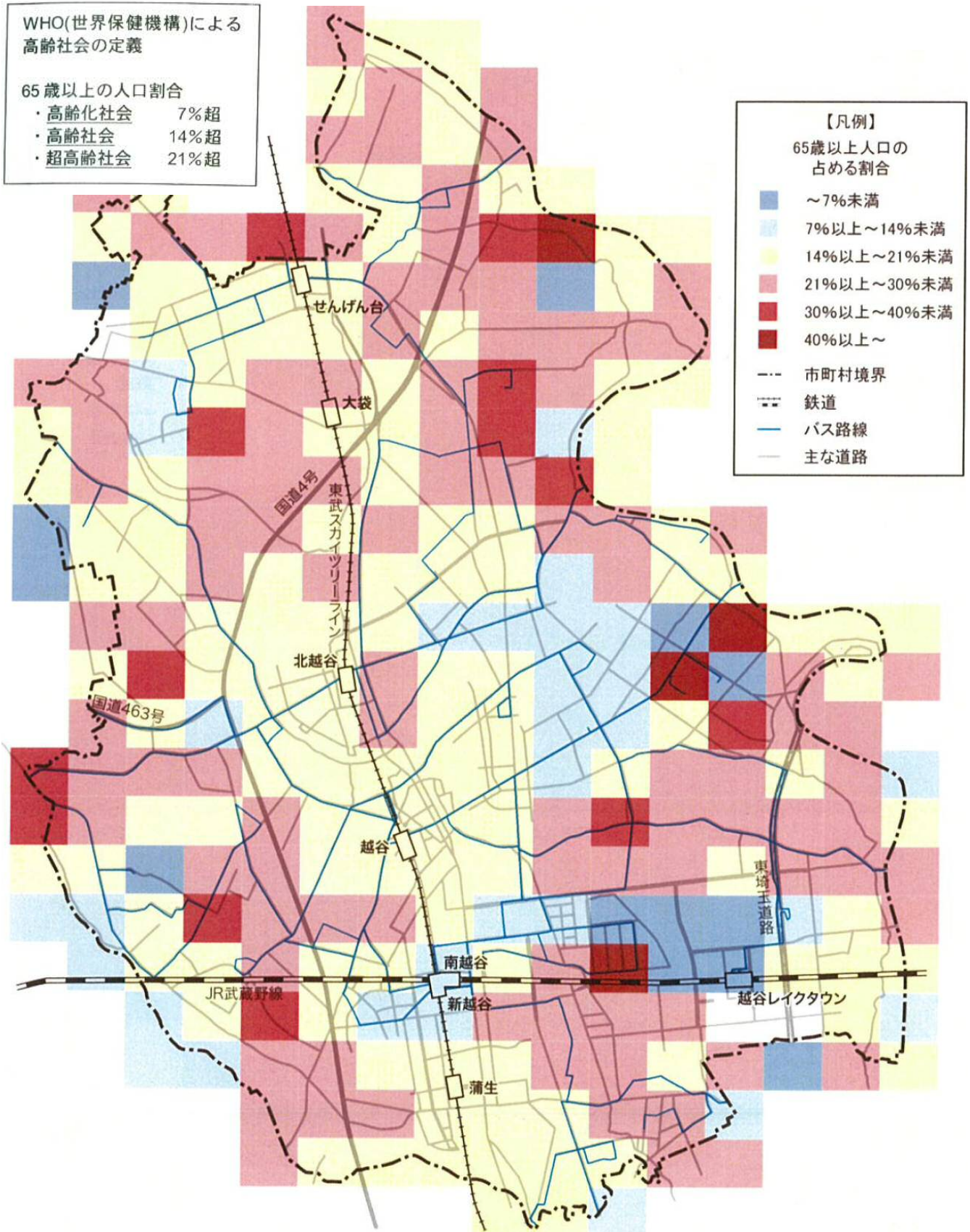


(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

①地域状況の視点

1)人口分布・高齢化率

図2 高齢化率（平成22年国勢調査）

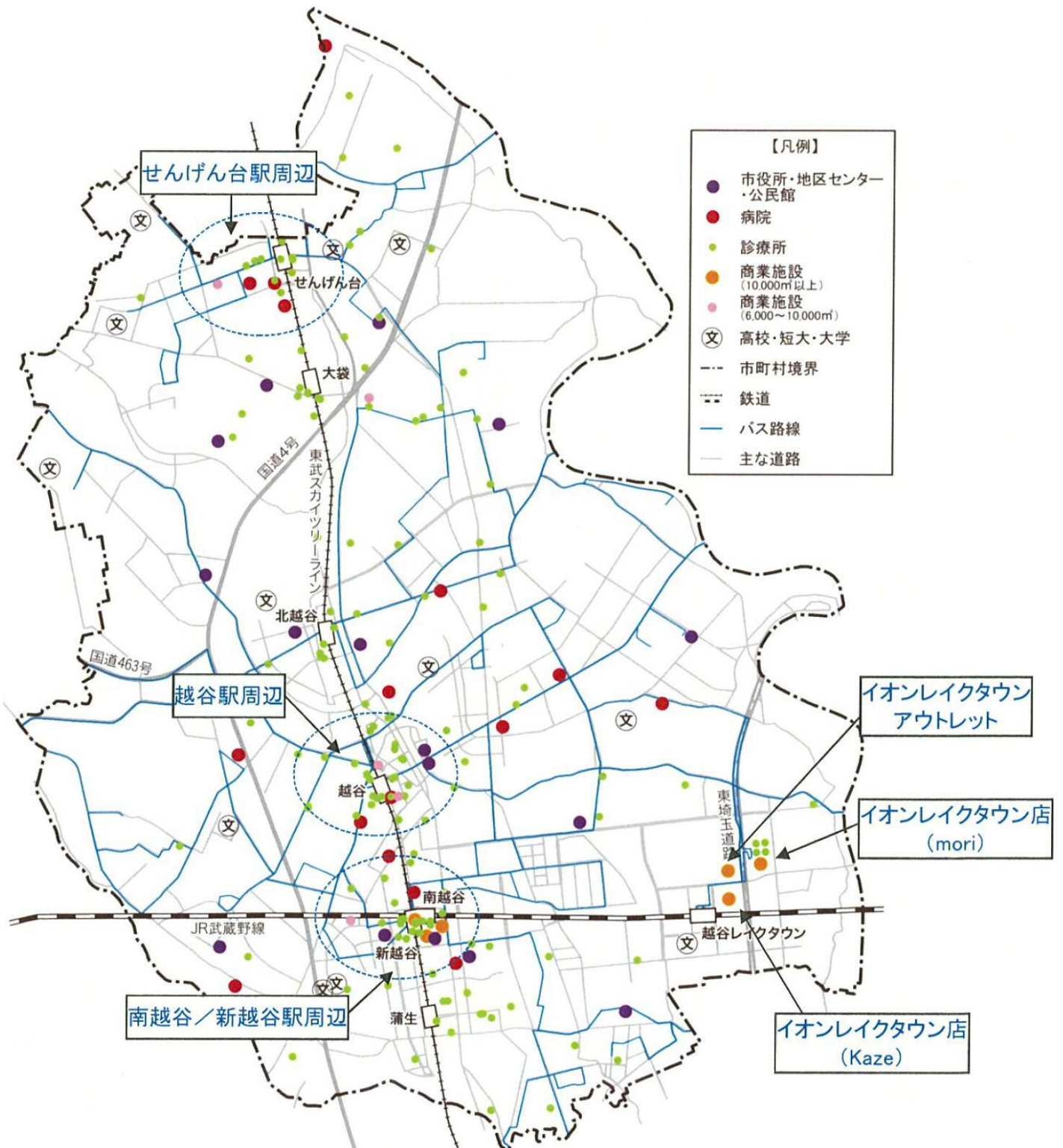


(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

①地域状況の視点

2) 施設立地

図3 施設立地状況（国土数値情報等）

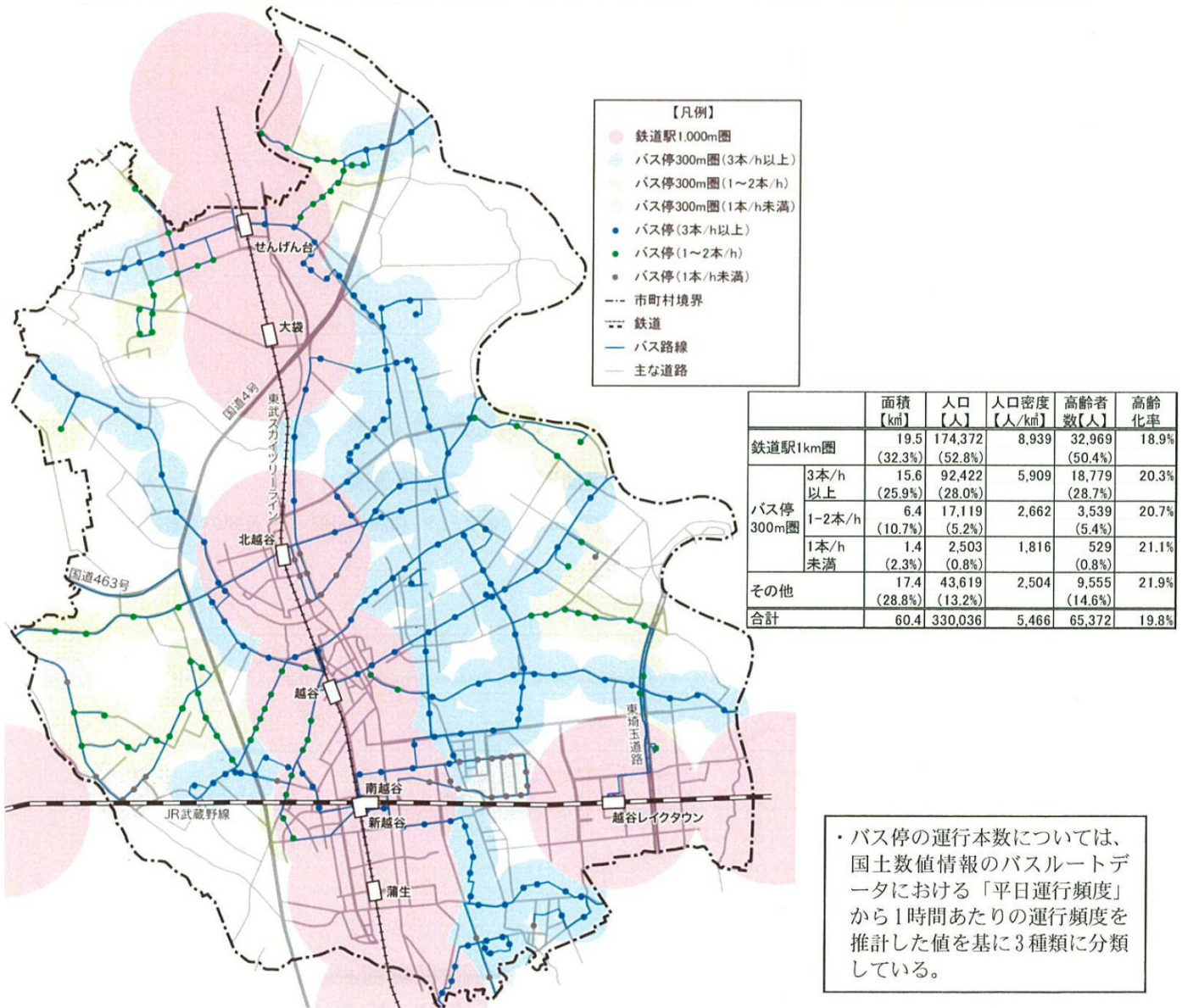


(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

②公共交通の需要と供給の視点

1) 公共交通ネットワークの現状 (供給側)

図4 公共交通ネットワーク  
(鉄道駅半径1km、バス停半径300m)

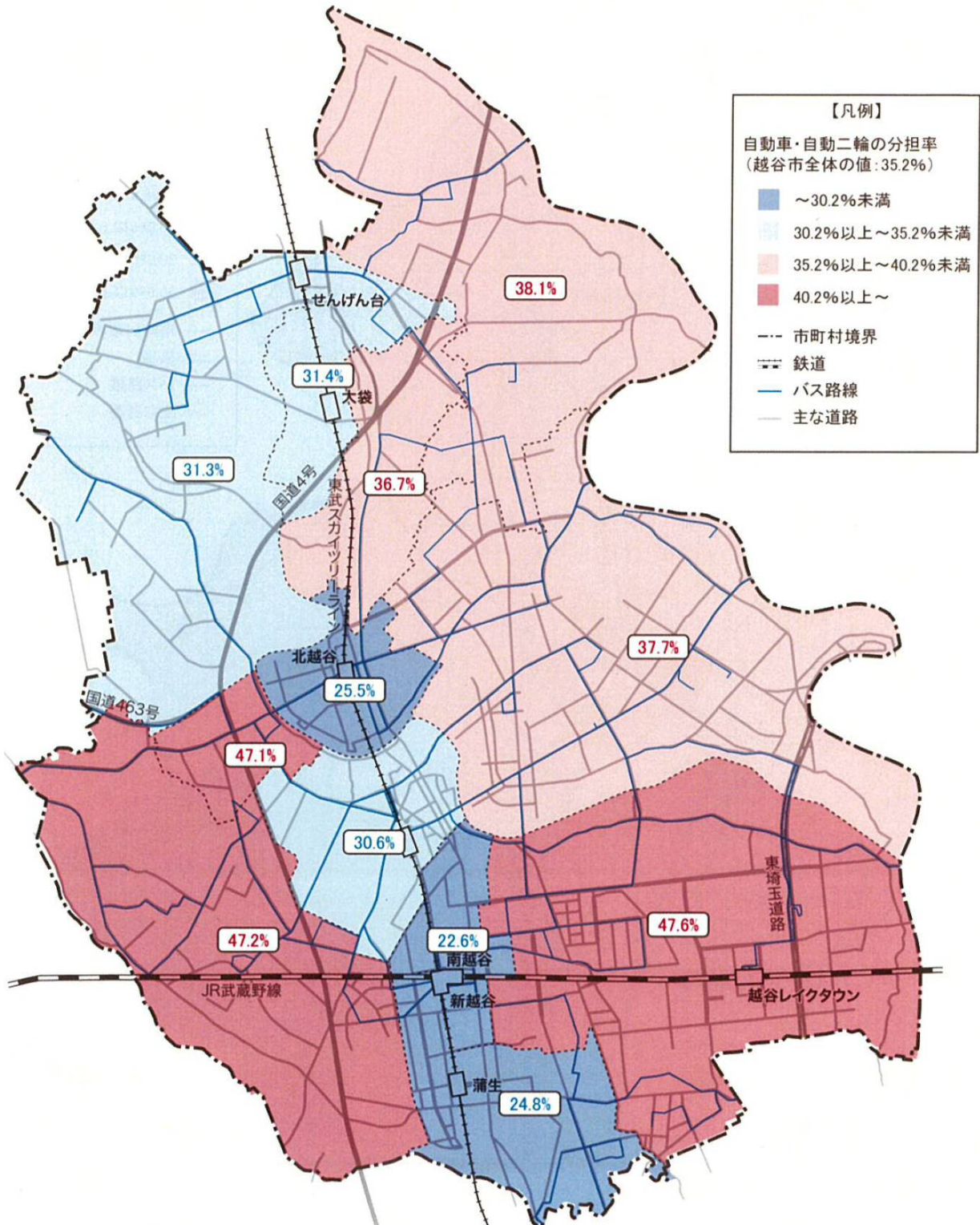


(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

②公共交通の需要と供給の視点

2) 市民の移動実態、ニーズの現状(需要側)

図5 自動車分担率(平成20年パーソントリップ調査)

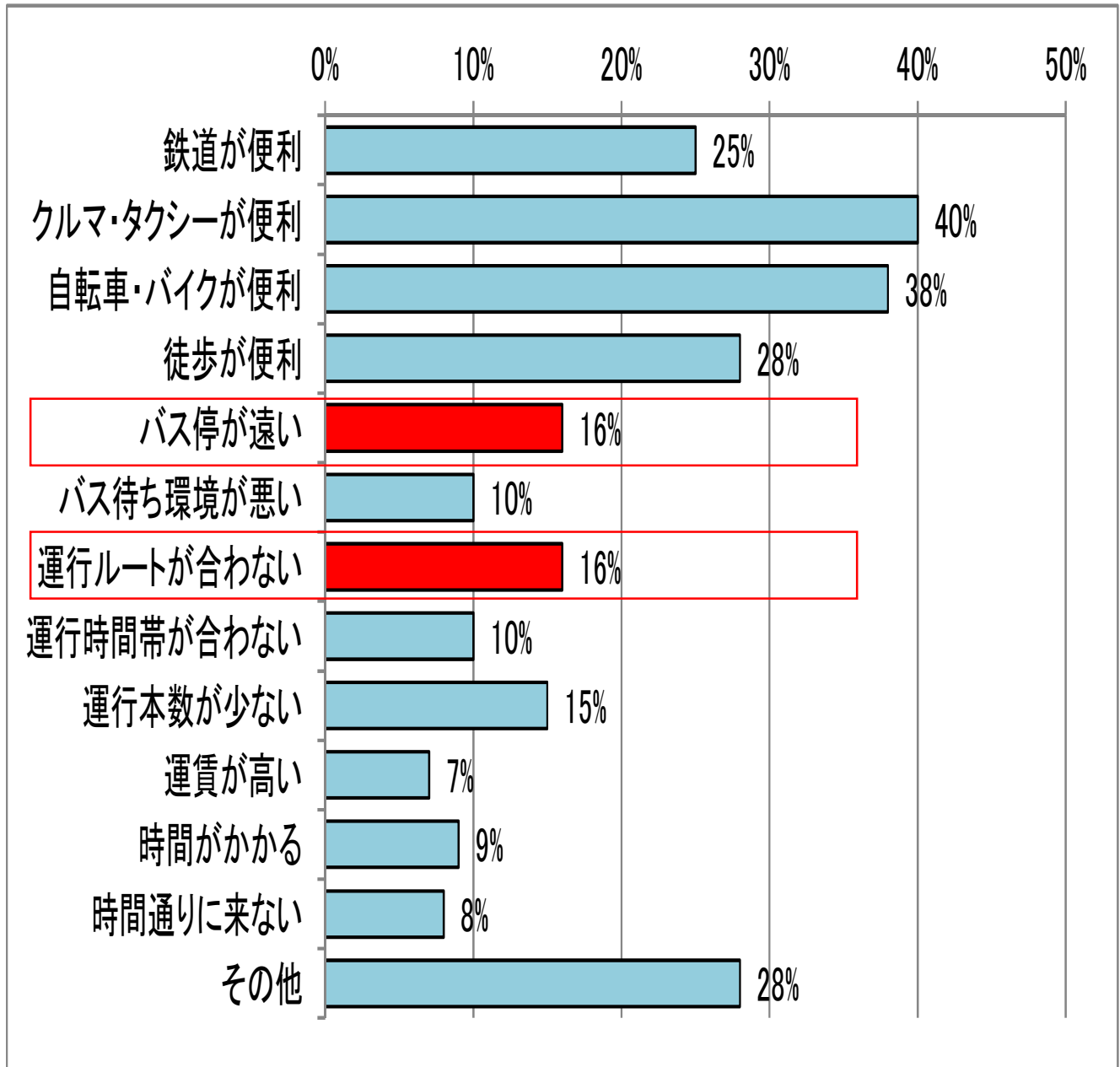


(1) 市全体・地域別の視点に基づく現状と課題

②公共交通の需要と供給の視点

2) 市民の移動実態、ニーズの現状(需要側)

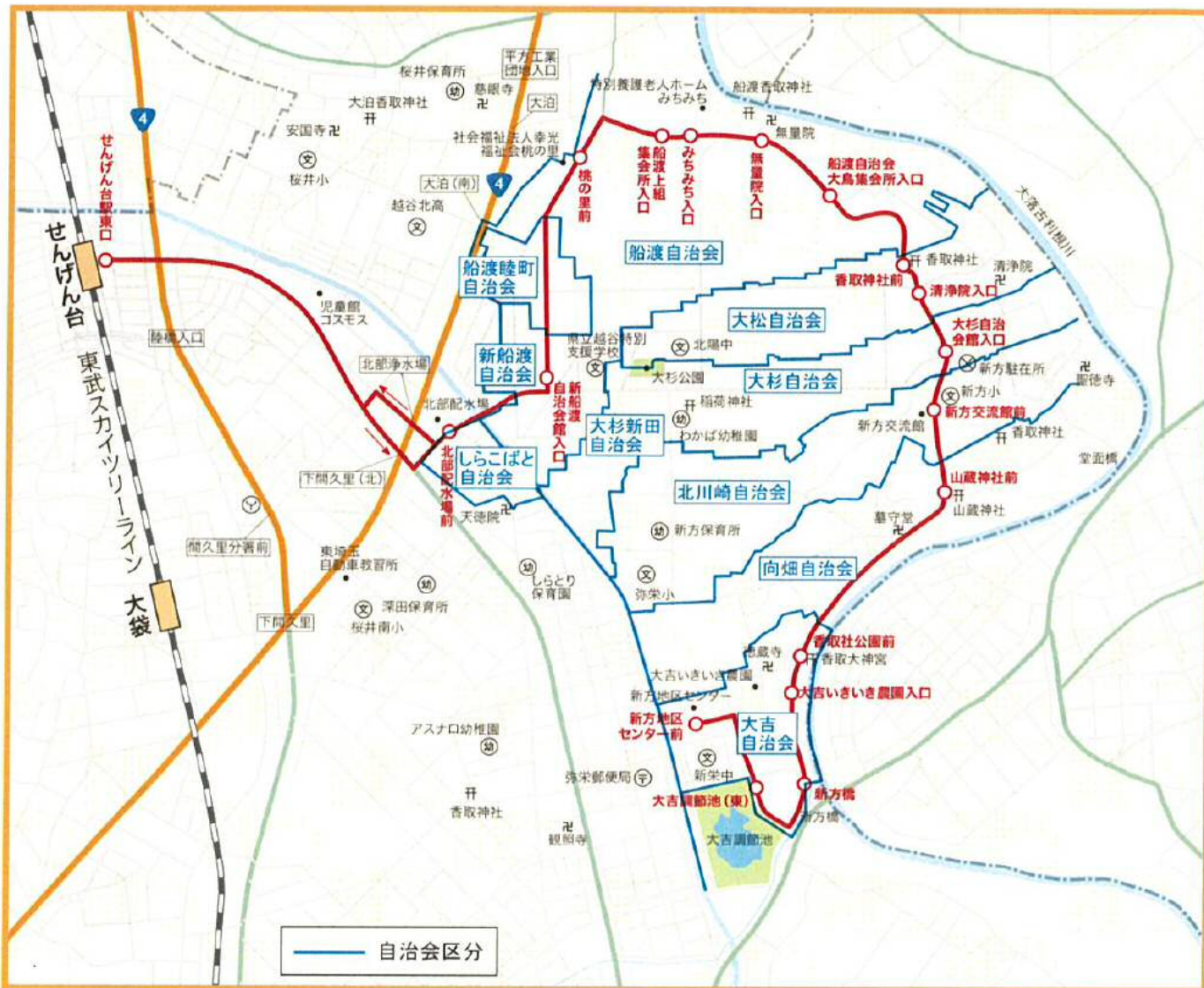
図6 バスを利用しない理由(平成26年度市民アンケート)



(N=467)

(2) ミニバスの試験運行の結果  
 1) ミニバスの試験運行の運行形態

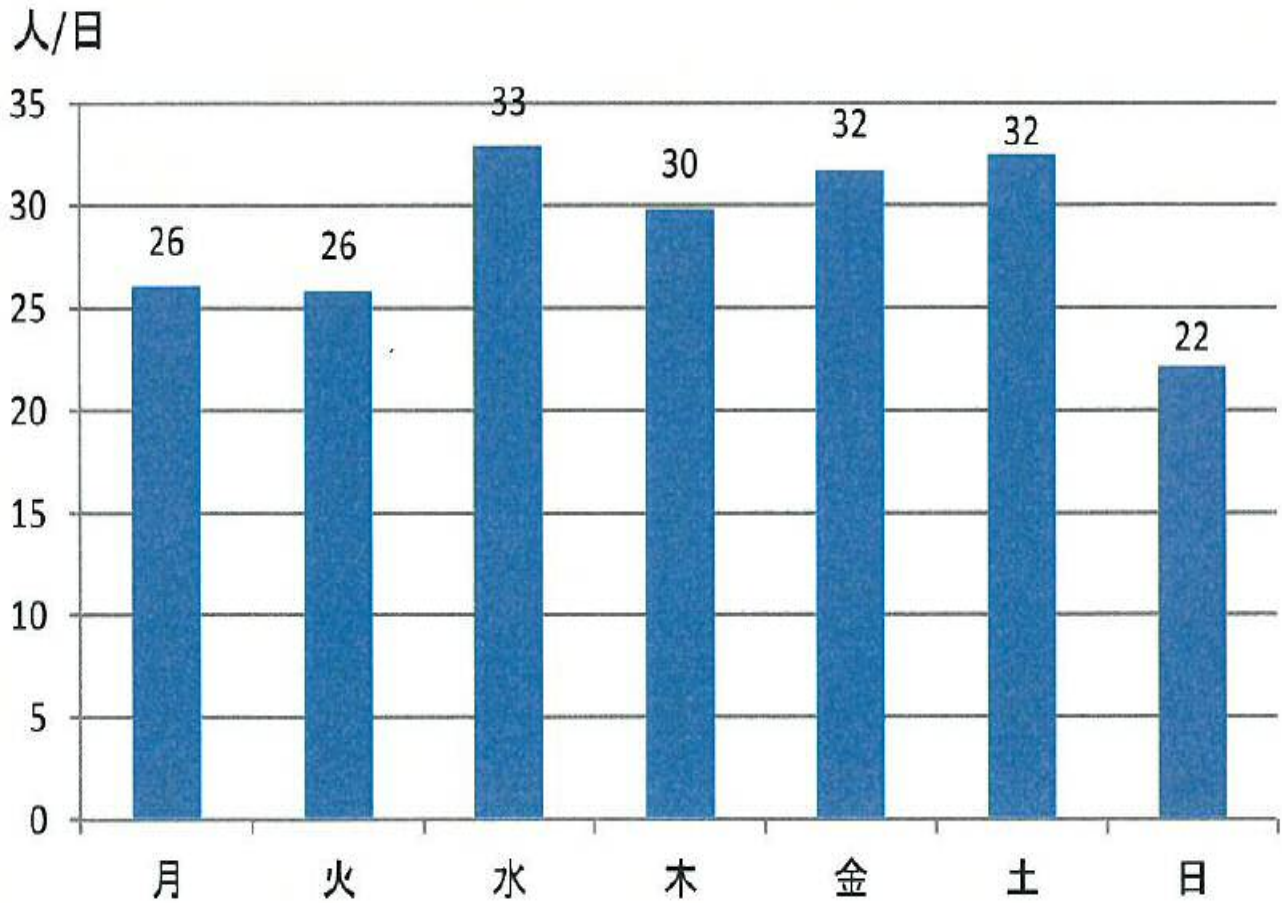
図7 ミニバスの運行ルート





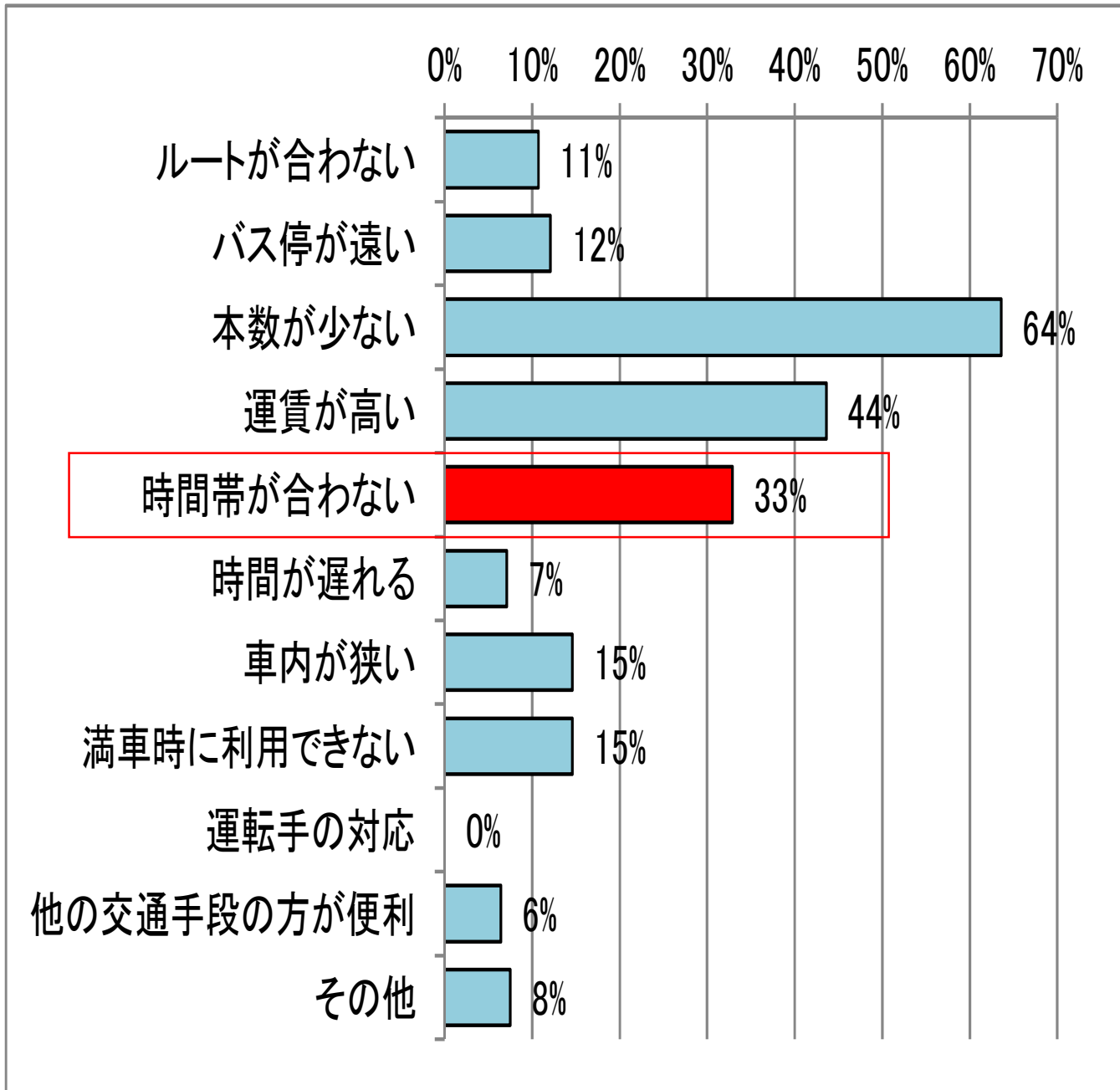
(2) ミニバスの試験運行の結果  
2) 利用状況、市民ニーズ

図8 1日当たりの利用者数(平均)



(2) ミニバスの試験運行の結果  
2) 利用状況、市民ニーズ

図9 ミニバスの試験運行アンケート(不満な点：利用者)



(2) ミニバスの試験運行の結果  
2) 利用状況、市民ニーズ

図10 ミニバスの試験運行アンケート(利用しない理由:非利用者)

